

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	天龍峡温泉交流館管理事業	会計	一般会計	事業No.	468	施策順No.	11-041
		事業種別	政策・重点	予算科目	7-1-4-14-8		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	観光課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	19	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	交流館の利用者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		利用者数・人	2916	6736	9117	10332	10500		
	意図	地域交流人口の増加							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	交流人口		2916	6736	9117	10000	10332	10500	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		施設の改修により便益性が向上し、多くの利用者に利用され交流事業等に活用された。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	天龍峡温泉交流館を天龍峡再生に向けた拠点施設として4つのテーマから活用する。 ①交流 ②定住支援 ③地域活動 ④温泉 さらに、名勝天龍峡整備計画に基づき、交流館横を通る遊歩道が天龍峡IC周辺地へ向けて整備されるため、同地と北半部との中継拠点施設としての整備、活用を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 天龍峡温泉交流館の維持管理 (1) 天龍峡温泉交流館維持管理費 (2) 借地料	1 利用者数 (1) 施設維持管理 (2) 交流館及び駐車場	1 10,000人 (1) 1式 (2) 1式
23年度実施計画	1 天龍峡温泉交流館の維持管理 (1) 天龍峡温泉交流館維持管理費 (2) 借地料	1 利用者数 (1) 施設維持管理 (2) 交流館及び駐車場	1 10,500人 (1) 1式 (2) 1式

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(そ)天龍峡温泉交流館使用料、諸収入 4,279千円
	特定財源	国庫支出金					
		県支出金					
		起債					
		その他	4,860	4,279	4,860		
		一般財源	8,296	8,093	5,458		
		計 (A)	13,156	12,372	10,318		
		正規職員所要時間		800			
		臨時職員等所要時間					
		人件費計 (B)		2,861			
		トータルコスト A+B		15,233			

4 事業に対する市民や議会の意見

議会からは、施設の活用の方向性を明らかにする必要があるとの意見をいただいている
地域からは、施設の継続的な運営を求める意見が寄せられており、実際に地元のまちづくり委員会が補助を出し、地区内に入湯回数券のあっせんを行い利用促進を図るなど、積極的な活用策が図られている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が観光消費額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	観光消費額(億円) 基本事業の成果指標
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	当施設を適正に維持管理することにより、4つのテーマに基づいた集客施設として利用でき、周辺事業者へ波及効果が図られてきている。		
	後期に向けた課題	施設の利活用計画を検討する必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	当施設を適正に維持管理することにより、利用者が安全に、安心して施設を利用することが可能となり、交流人口の増加が図られた。		
	後期に向けた課題	施設の利活用計画を検討と合わせて考えていく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	ランニングコストなど、極力節約に努めた。		
	後期に向けた課題	指定管理者等の検討が必要である。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市条例に定められた施設であり、市が管理する責務を有している。		
	後期に向けた課題	指定管理者などの検討も進めながらも、現在は市条例に定められた施設であり、市が管理する責務を有している。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	市条例に定められた施設であり、市が管理する責務を有している。		
	後期に向けた課題	施設の利活用計画や指定管理者などの調査研究の中で、行政以外の主体や役割を検討していく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	当施設を適正に維持管理することにより、4つのテーマに基づいた集客施設として利用でき、周辺事業者へ波及効果が図られてきている。		
	後期に向けた課題	指定管理者等を含め、施設の利活用計画を検討する必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------